

現実の「光」と「闇」： 被災地から

先月は皆様の善意を背負って、被災地に行つて参りました。八日〜十四日までの一週間被災地では大変貴重な出会いと経験をいくつも重ねる事が出来ました。被災地では今でも瓦礫撤去や、各地で定期的にコミュニティが形成できる様な活動が現地や民間レベルで行われていました。

やはり現場に赴き、その空気に触れ、寝食を共にしなければ何も分からな
いもんだなあと、しみじみと感じ入
った次第です。

私は知り合いやコネもない中、滞
在中の一週間は、とにかく命懸けで
視察調査に励みました。富山県から、
魚津市から、そして真成寺から今後
の支援の仕方を模索する毎日でした。
現地を尋ね歩くこと二十数団体を数
えました。

今月は、その被災地滞在中に感じ
た事や、現場の状況などを、深いご
縁と絆を結ぶ事が出来た有力団体二
団体を中心に、赤裸々にご報告させ
て頂こうと思います。

富山を出発した私が先ず向かった

のが岩手県の北上市。北上駅から徒歩
で約五分の場所に『NPO法人フォルダ
(勤労青少年ホーム内)』があります。

その代表が**司東道雄氏**です。そんな司
東さんは、北上市で市会議員を経て、
県会議員に立候補しようと準備してい
るところに大震災が勃発しました。大
震災が起きた三月十一日まさにその時、
街頭演説中だったといひます。拡声器
から住民の皆さんへ、司東さんが理事
長を務めるNPO法人フォルダの事務
所を開放し、独自に仮の避難所として
被災住民の生活を支援された方です。

司東氏は大震災後、被災者支援と復
興に集中する為に議員のポストを諦め、
今から七年前に立ち上げたNPO法人
フォルダでの支援活動に専念する事を
決意されます。三月十六日から約一年
になるうとする現在まで毎日欠かさず、
車で片道二時間の沿岸部まで物資を運
び、被災者の心に寄り添っておられま
す。議員時代に形成した人脈を使い、
自分に出来る事を模索しておられます。
驚く事に司東氏自身の家屋も全壊とい
う状態(被災者)でありながら、自ら
の生活も顧みず、支援活動に奔走して
おられるのです。本当に頭が下がる思
いがするわけですが、そんな司東氏に
直接御案内して頂きながら、陸前高田

市や大船渡市の沿岸部や、仮設住宅の
各お宅などを巡回して回らせて頂きま
した。

現場で直接被災者に関わり、ずっと
支援し続けてこられた司東氏だからこ
そ分かる情報を沢山頂戴する事が出来
ました。富山県に住む私達が震災の状
況を得るには、新聞やテレビのニュー
スなど報道される情報を見聞するしか
方法がないわけですが、そんな『メ
ディアで流されている情報は針小棒大で、
現実がねじ曲げられている』とのこと。
現地では報道されているような綺麗事
では片付けられない現状があります。

皆さん想像して下さい。もし自分が
被災地に赴き、何かボランティア支援
をするとしたら、何をされるでしょう
か？そして何が出来るでしょうか？

炊き出しや、瓦礫撤去といったこと
ろではないでしょうか？現地の被災者
に言わせれば、「炊き出しや瓦礫撤去
の様なボランティアは、私達被災者の
格差を広げてしまうので、止めてもら
いたい」との驚くべき声でした。あの
惨状で出来る瓦礫撤去などというもの
はたかが知れています。大きな部屋の
塵や埃を取り去るくらいイメージで
す。しかもボランティアの為のボラン
ティアが待機しており、瓦礫撤去が済

んだ後に重機が数十機やってきて、
最初から根こそぎ瓦礫処理をするそ
うです。おまけに被災者には仕事があ
りません。仕事とお金がない被災
者が唯一できる仕事を言えば瓦礫撤
去だそうです。極端な話、右から左
に瓦礫を移動しただけでも瓦礫撤去
になるわけで、仮に朝から夕方まで
一日瓦礫撤去したとなると日当が約
一万二千円貰えるそうで、見方によ
っては唯一の仕事ボランティアの
善意が奪ってしまっているという悲
しい悪循環になるのです。

また炊き出しについても格差を広
げているようです。炊き出しが行わ
れるのは、早朝でも深夜でもありま
せん。ほぼ間違いなく昼間です。そ
の昼間に仮設住宅に居られなければ、
また表に出て来られなければ炊き出
しもありつけないわけですよ。で
は、昼間おられない方はどういう方
なのでしょう？年齢が若く、仮設
住宅には今のところ後一年です(三
〜四年に延びるという声も聞きました)
た。それまでに仕事を探さねばなり
ません。また未だ身内が行方不明と
いう方も、その行方を尋ねて歩かれ
る方もおられる様です。実は本当に
困っている人には芸能人にも会えな

い。炊き出しにもありつけない。また表に出て来られない方の中には精神的に落ち込んでいます。中には仮設住宅内でも既に村八分的なものが起きてしまっています。はじめは協力し合いながら絆を深めた間柄なのに、心身共に格差が起きてしまい、少し我が儘になってきている様です。そして一つ通りを挟んで向こうに住んでいる在宅避難をされている被災者には、物資や義援金が一円もまわらず本当に困っておられました。

「避難所や仮設住宅は世界中から物資が届くので、夏頃まで肉や魚と豊富で世界のグルメフェアの様だった」と皮肉る声も耳にしました。更に驚いたのは、車で街中を走っている時です。私の目に入ってきたのは、パチンコ屋さんで車が順番待ちをして駐車している光景でした。後の調査で判明したんですが、岩手県も宮城県もパチンコ屋さんが大繁盛しているというのです。はじめは自暴自棄になった被災者が一攫千金を狙ってパチンコをしているのかと思っただけですが、現実には仕事も無く、仮設住宅に居れば生活を保障してもらえないという怠惰な気持ちから、私達の善意で集まった義援金を使って、毎

日の様にパチンコ屋で暇つぶしをしているというから愕然としました。被災者の中には、支援をもらうのが当たり前になってきている人も出て来たというのです。司東氏は「ボランティアをしている私達に支援してもらいたいですよ」と言うのもうなずけました。さて、この様な現状で私達には何ができるのでしょうか？報道される情報を半分に見聞し、私達一人一人が見識を持ち判断していくほか無いと言えそうです。

以上、簡単ではございますが、敢えて闇の部分のご報告を中心に記載しました。本当の復興を成し遂げる為のご支援をするには、やはり真実を見聞しなければならぬと思います。紙幅が少なくなりましたので、ここで終わりにしますが、来月号ではもう一つの団体、宮城県は東松山市にある『NPO法人創る村(飴屋善敏理事長)』での経験談を中心にご報告致します。大震災から一周忌を迎える三月十一日には、この『創る村』主催のイベントに参加し、【鎮魂と復興】というテーマでパネルディスカッションをする予定になっています。そのご報告も兼ねて記しますので、来月号も楽しみにして下さい。

今回の視察調査では、元々コネもなく、例えるなら一という小さな力しか無かったものが、結果二十にも三十になる実りのある滞在とする事が出来たのではないかと満足しています。これが逆に、百の力があるのに一や二の実りにしかならない事もあるかと思いません。やり方次第で結果が大きく変わってしまう。今後も慎重に復興支援に邁進していこうと思います。私達は一の力を百の結果に導くように動かねばなりません。また皆様の末永いご協力をよろしく願います。

『親切』という言葉の語源は曹洞宗を開いた道元禅師の言葉で「新念切々たり」というのがその語源です。「新念」とは親の子に対する深い思いの意です。そんな利他の精神、無償の愛情で、日本一心を目指したいものです。

今回の実りある滞在が出来ましたのも、ひとえに住職をはじめ寺族が私の穴を埋めて下さっていたお陰、そして檀信徒の皆さんの後押しのお陰です。ありがとうございました。視察調査のご報告は来月号に続きます。

最後に、四月二十二日に【三十番神様】の入魂開眼式がございます。

【三十番神様】は日本を代表する神々様です。この【三十番神様】をお迎え

し、祈りを捧げる事で、日本の平安、私達が日本一心を現実のものとす御守護が得られるものと確信しております。どうぞパソコンから【真成寺 三十番神様】で検索して下さい。詳しい情報を掲載してあります。

合掌

副住職 谷川寛敬

